

【 2025年3月期 第1四半期 決算のポイント 】



- ◆ 日本郵政グループ連結決算の概要について、「決算説明資料__2025年3月期第1四半期」によりご説明します。



1.

連結業績

◆ 連結業績は、日本郵政グループ連結決算としての業績を記載しています。

連結業績サマリー

- ・ 経常収益は2兆7,358億円、前年同期比1,120億円の減収
- ・ 経常利益は2,114億円、前年同期比384億円の増益
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純損益は747億円、前年同期比832億円の増益

(億円)

	2024/3期 第1四半期	2025/3期 第1四半期	前年同期比	通期業績予想 2025/3/31	進捗率
経常収益	28,479	27,358	△ 1,120 (△ 3.9%)	112,800	24.3%
経常利益	1,730	2,114	+ 384 (+ 22.2%)	7,600	27.8%
親会社株主に帰属する 四半期純損益 (注1)	△ 85	747	+ 832 (-)	2,800	26.7%
非支配株主持分を含む 四半期純利益 (注2)	344	1,258	+ 914 (+ 265.5%)		

(注1) 次ページ以降の「四半期純損益」は「親会社株主に帰属する四半期純損益」。

(注2) 当社の中期経営計画「JP ビジョン2025+」の目標数値である、連結当期純利益に相当する利益。

- ◆ 太い線で囲んだ箇所が、2025年3月期第1四半期のグループ連結の数値です。
- ◆ グループ連結では、経常収益が1,120億円減少の2兆7,358億円、経常利益が384億円増加の2,114億円となりました。四半期純損益も832億円増加し、747億円の純利益となり、減収増益の決算となりました。
- ◆ 四半期純損益増加の主な要因は、2024年3月期第1四半期に日本郵政が保有している楽天グループ株式にかかる有価証券評価損(特別損失)850億円を計上しましたが、2025年3月期第1四半期は同損失の計上がなかったためです。

- ・ 四半期純損益は日本郵便は△182億円、ゆうちょ銀行は962億円、かんぽ生命は209億円
- ・ 日本郵便は増収減益、ゆうちょ銀行は減収増益、かんぽ生命は減収ながら純損益はほぼ横ばい

■ 2025年3月期 第1四半期（累計）経営成績 (億円)

	日本郵便	ゆうちょ銀行	かんぽ生命
経常収益	8,322	6,056	14,654
前年同期比	+ 292 (+ 3.6%)	△ 378 (△ 5.8%)	△ 1,283 (△ 8.1%)
経常損益	△ 160	1,377	681
前年同期比	△ 244 (-)	+ 192 (+ 16.2%)	+ 248 (+ 57.5%)
四半期純損益	△ 182	962	209
前年同期比	△ 276 (-)	+ 94 (+ 10.8%)	△ 0 (△ 0.4%)

■ 2025年3月期 通期業績予想 (億円)

	日本郵便	ゆうちょ銀行	かんぽ生命
経常利益	△ 20	5,250	2,000
(1Q進捗率)	(-)	(26.2%)	(34.1%)
当期純利益	△ 160	3,650	790
(1Q進捗率)	(-)	(26.3%)	(26.5%)

注：各社の数値は、各社を親会社とする連結決算ベース。また、「四半期純損益」「当期純利益」は、「親会社株主に帰属する四半期純損益」及び「親会社株主に帰属する当期純利益」の数値。

- ◆ 2ページは、連結業績サマリー（主要子会社）について記載しています。
- ◆ 日本郵便は、経常収益は増収となったものの、郵便・物流事業、郵便局窓口事業が減益となり、経常損益、四半期純損益ともに減益となりました。
- ◆ ゆうちょ銀行は、臨時損益が減少しましたが、資金利益およびその他業務利益が増加したことにより、経常利益、四半期純利益ともに増益となりました。
- ◆ かんぽ生命は、基礎利益は減少しましたが、臨時損益の改善およびキャピタル損益の大幅な改善により、経常利益は増益、四半期純利益はほぼ横ばいとなりました。
- ◆ 下段の記載は通期業績予想に対する進捗率です。
- ◆ グループ各社での進捗率は、経常利益でゆうちょ銀行が26.2%、かんぽ生命が34.1%、当期純利益で、ゆうちょ銀行が26.3%、かんぽ生命が26.5%となりました。（日本郵便は損失のため記載なし）

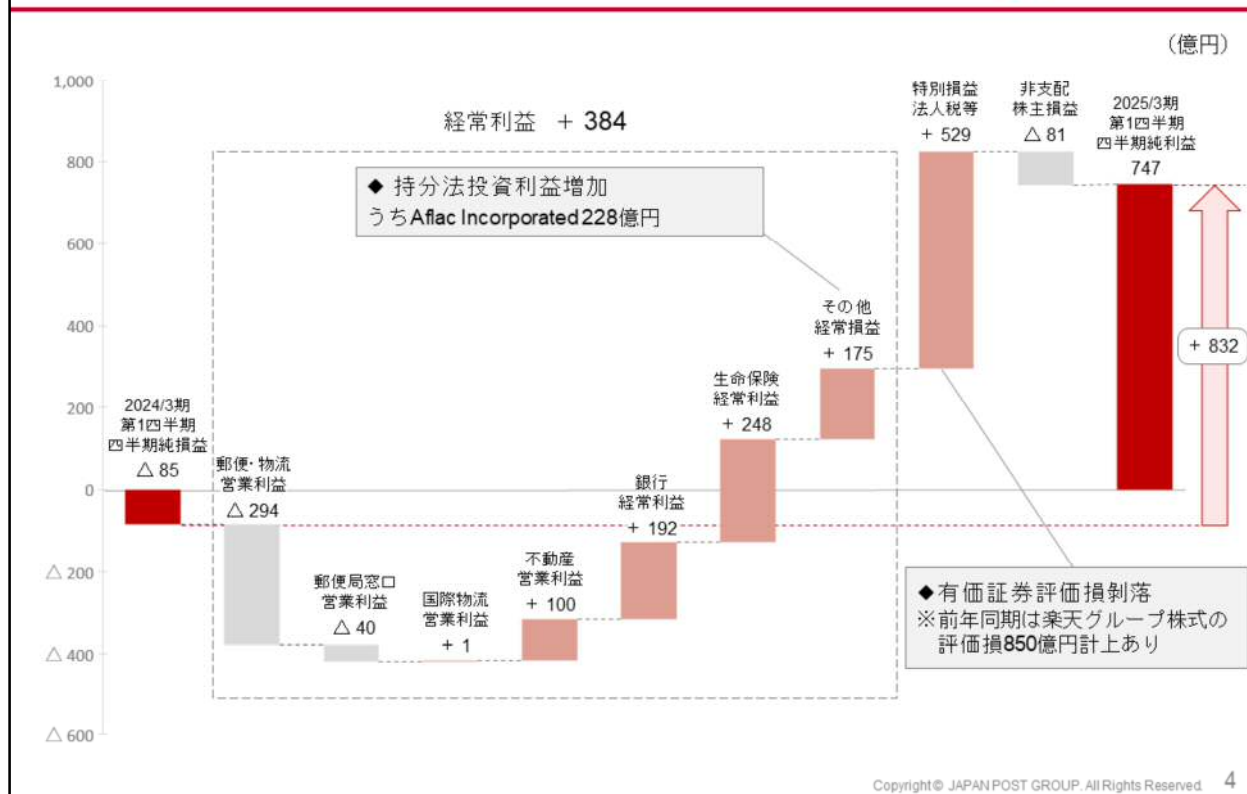
セグメント別業績

(億円)

		2024/3期 第1四半期	2025/3期 第1四半期	前年同期比
郵便・物流事業セグメント	営業収益	4,829	4,783	△ 45
	営業損益	△ 70	△ 364	△ 294
郵便局窓口事業セグメント	営業収益	2,598	2,563	△ 34
	営業利益	178	138	△ 40
国際物流事業セグメント	営業収益	1,035	1,247	+ 212
	営業損益 (EBIT)	8	9	+ 1
不動産事業セグメント	営業収益	108	296	+ 188
	営業損益	△ 15	85	+ 100
銀行業セグメント (ゆうちょ銀行)	経常収益	6,434	6,056	△ 378
	経常利益	1,184	1,377	+ 192
生命保険業セグメント (かんぽ生命)	経常収益	15,937	14,654	△ 1,283
	経常利益	432	681	+ 248

注: 国際物流事業セグメントはEBIT、銀行業セグメント・生命保険業セグメントは経常損益、その他は営業損益を記載。

- ◆ 3ページは、セグメント別業績について記載しています。
- ◆ 郵便・物流事業セグメントは、営業収益が45億円減少の4,783億円、営業損益が294億円減少の364億円の営業損失となりました。
- ◆ 郵便局窓口事業セグメントは、営業収益が34億円減少の2,563億円、営業利益が40億円減少の138億円となりました。
- ◆ 国際物流事業セグメントは、営業収益が212億円増加の1,247億円、営業損益(EBIT)が1億円増加の9億円となりました。
- ◆ 不動産事業セグメントは、営業収益が188億円増加の296億円、営業損益が100億円増加の85億円となりました。
- ◆ 銀行業セグメント(ゆうちょ銀行)は、経常収益が378億円減少の6,056億円、経常利益が192億円増加の1,377億円となりました。
- ◆ 生命保険業セグメント(かんぽ生命)は、経常収益が1,283億円減少の14,654億円、経常利益が248億円増加の681億円となりました。



- ◆ 4ページは、日本郵政グループ 四半期純損益の増減要因について記載しています。
- ◆ 滝グラフは、四半期純損益の前年同期からの増減分析です。
- ◆ 右から4番目のその他経常損益は、Aflac Incorporated に係る持分法投資利益228億円の計上により、前年同期比175億円増加しております。
- ◆ 右から3番目の特別損益は、日本郵政が保有している楽天グループ株式にかかる有価証券評価損(特別損失)の剥落等により、前年同期比529億円増加しております。
- ◆ これらの結果、四半期純損益は、前年同期比832億円増加し、747億円の純利益となりました。

➤ Aflac Incorporated にかかる持分法投資利益

2025年3月期から Aflac Incorporated にかかる持分法投資利益を認識しています。

		2025/3期 第1四半期
持分法投資利益	億円	228
アフラック当期純利益	百万USD	1,879
持分比率	%	9.04
為替レート	円	148.61

➤ 自己株式の取得状況(2024年6月30日現在)

2024年5月15日開催の取締役会において、株主還元の充実及び資本効率の向上を目的とした自己株式の取得を行うことを決議し、5月16日から実施しています。

- ・取得期間：2024年5月16日～2025年3月31日まで
- ・取得株式総数(上限)：320,000,000株
- ・取得価額総額(上限)：3,500億円

[取得状況]

	取得状況	進捗率
取得株式総数	35,262,000株	11.0%
取得価額総額	52,342,989,800円	15.0%

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 5

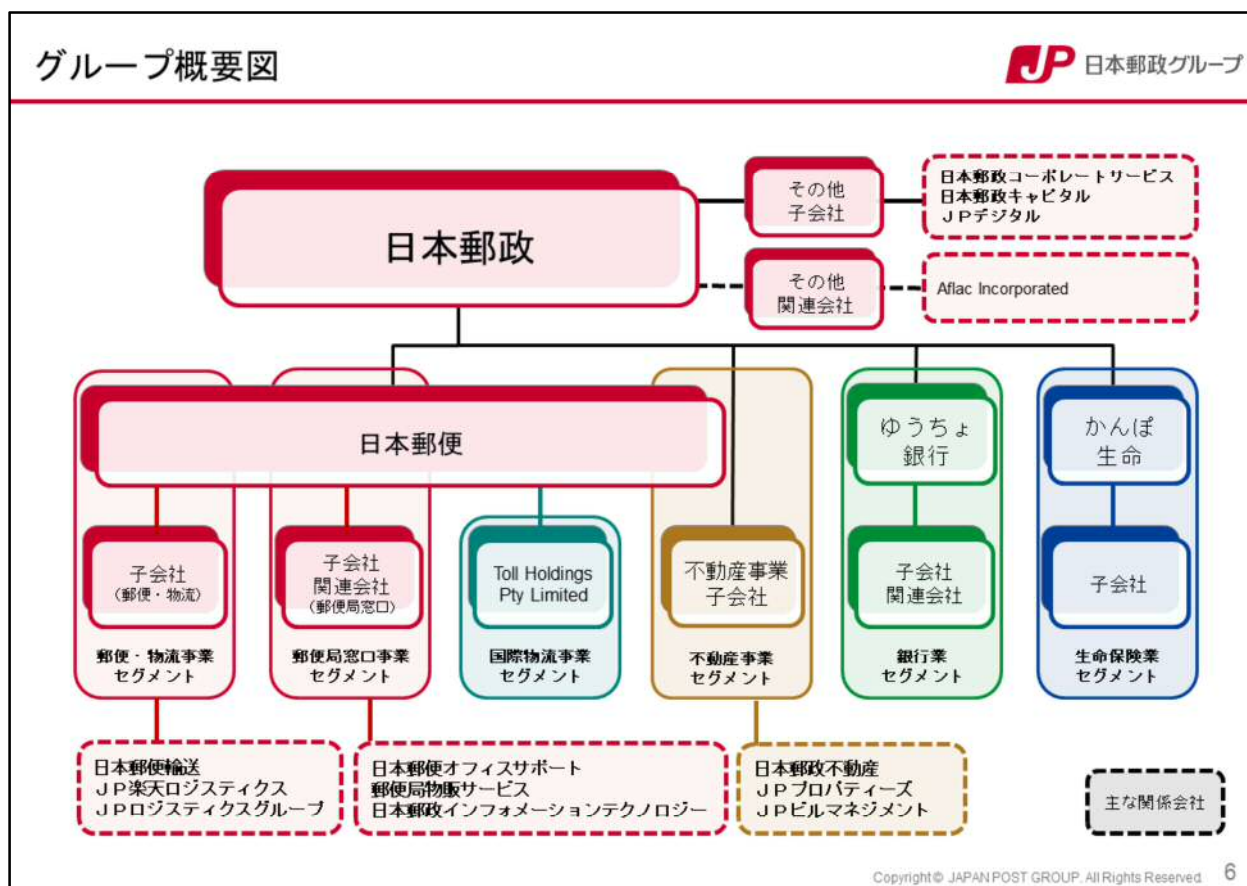
◆ 5ページは、連結業績の参考情報について記載しています。

◆ Aflac Incorporated に係る持分法投資利益及び日本郵政(株)における自己株式の取得状況について、記載しております。

2.

セグメント別の状況

◆ セグメント別の状況は、事業セグメント別の業績を記載しています。

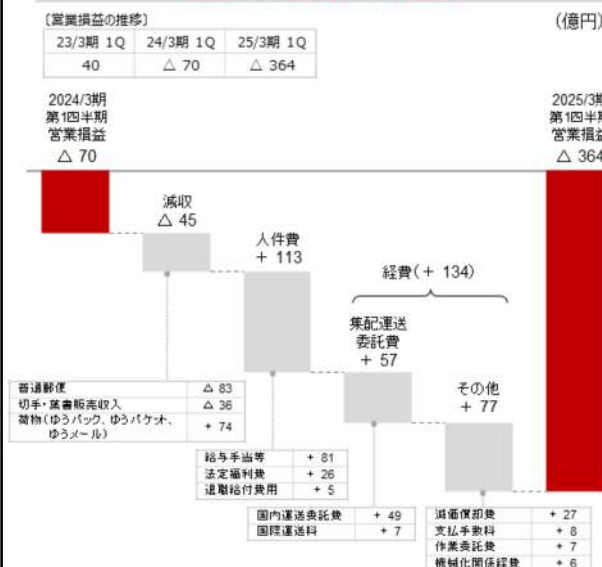


なお、2025年3月期から、日本郵便と、日本郵政不動産等における不動産事業をグループ横断的に統括して一体的に事業を推進し業績管理を行うため、報告セグメントの区分を見直し、「不動産事業」セグメントを独立させました。

郵便・物流事業セグメント（日本郵便（連結））決算の概要 日本郵政グループ

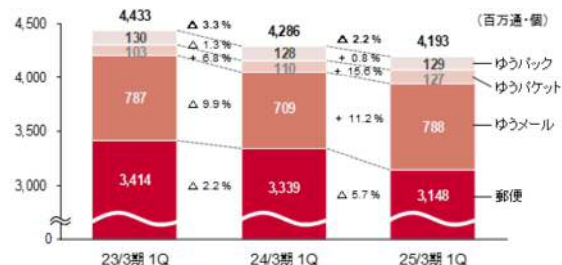
- ・取扱数量は、荷物が増加したものの、郵便が大きく減少し、2.2%減少
- ・営業収益は、荷物収入が増加したものの、郵便関係収入が減少し、45億円減収
- ・営業損益は、減収に加えて人件費及び経費の増加により、赤字幅が294億円拡大

営業損益の増減分析(前年同期比)



注：2025/3期から不動産事業セグメントを新設したことに伴い、2024/3期の数値を組替え。

取扱数量の推移



当第1四半期の経営成績

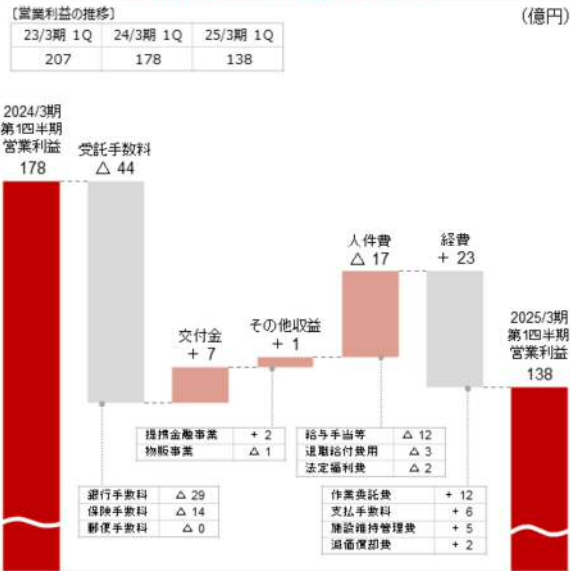
	2025/3期 第1四半期	2024/3期 第1四半期	増減
営業収益	4,783	4,829	△ 45
営業費用	5,148	4,900	+ 248
人件費	3,207	3,093	+ 113
経費	1,941	1,806	+ 134
営業損益	△ 364	△ 70	△ 294

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 7

- ◆ 7ページは、郵便・物流事業セグメント（日本郵便（連結））について記載しています。
- ◆ 右上の棒グラフは、営業収益に直結する郵便物等の取扱数量の推移です。
- ◆ 総引受物数は41億93百万通・個で、前年同期比2.2%の減少となりました。
- ◆ ゆうパック、ゆうパケット、ゆうメール、郵便のそれぞれの増減率は次の通りです。
 - ・ ゆうパック : 0.8%の増加
 - ・ ゆうパケット : 15.6%の増加
 - ・ ゆうメール : 11.2%の増加
 - ・ 郵便 : 5.7%の減少
- 左下の滝グラフは、営業損益の前年同期からの増減分析です。
- 左から2番目、営業収益は、荷物収入が増加したものの、郵便関係収入の減少等により、前年同期比45億円減少しております。
- 営業費用は、引き続きコストコントロールの取組等を進めたものの、左から3番目の人件費が113億円、同じく4番目の集配運送委託費が57億円、それぞれ増加したことなどにより、全体で248億円増加となりました。
- ◆ これらの結果、営業損益は、前年同期比294億円減少し、364億円の営業損失となりました（赤字幅拡大）。

- ・営業収益は、銀行手数料、保険手数料の減少が継続し、34億円減収
- ・営業利益は、減収に加えて経費の増加等により、40億円減益

営業利益の増減分析(前年同期比)



注：2025/3期から不動産事業セグメントを新設したことに伴い、2024/3期の数値を組替え。

収益構造の推移



当第1四半期の経営成績

	2025/3期 第1四半期	2024/3期 第1四半期	増減
営業収益	2,563	2,598	△ 34
営業費用	2,424	2,419	+ 5
人件費	1,777	1,795	△ 17
経費	646	623	+ 23
営業利益	138	178	△ 40

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 8

- ◆ 8ページは、郵便局窓口事業セグメント（日本郵便（連結））について記載しています。
- ◆ 右上は収益構造の推移を示した棒グラフです。
- ◆ 銀行手数料や保険手数料の減少が続き、営業収益は前年同期比で34億円の減収となりました。
- 左下の滝グラフは、営業利益の前年同期からの増減分析です。
- 左から2番目の受託手数料は、銀行手数料の減少等により44億円の減収となりました。
- 営業費用は、右から3番目の人件費は減少したものの、右から2番目の経費が増加し、全体で5億円の増加となりました。
- ◆ これらの結果、営業利益は、前年同期比40億円減少し、138億円となりました。

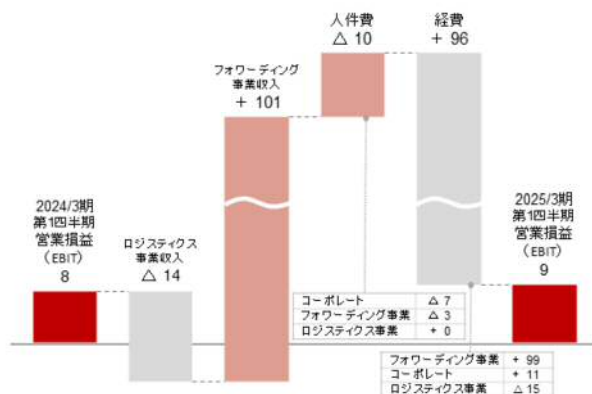
- ・ 営業収益は、フォワーディング事業収入の増加等により、212億円増収
- ・ 営業損益 (EBIT) は、概ね前年同期と同水準

営業損益 (EBIT) の増減分析 (前年同期比)

〔営業損益 (EBIT) の推移〕

23/3期 1Q	24/3期 1Q	25/3期 1Q
43	8	9

(百万豪ドル)

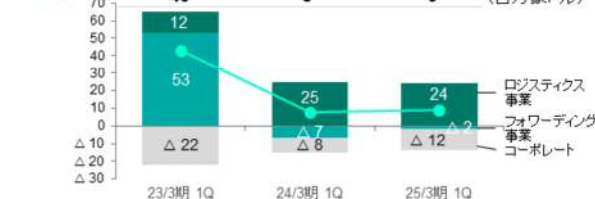


注1: 表の下段括弧内は期中平均レート (2025/3期第1四半期 102.74円/豪ドル、2024/3期第1四半期 91.78円/豪ドル) での円換算額。

注2: 2025/3期のセグメント間の一部事業の組替えに併せて、2024/3期の数値を組替え (全体合計額は一致)。

事業別の営業損益 (EBIT) の推移

合計 (百万豪ドル)



当第1四半期の経営成績

(百万豪ドル、下段括弧内は億円)

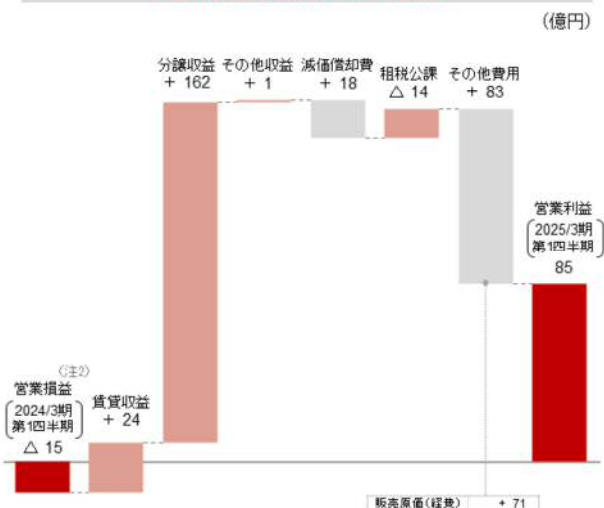
	2025/3期 第1四半期	2024/3期 第1四半期	増減
営業収益	1,214 (1,247)	1,127 (1,035)	+ 86 (+ 212)
営業費用	1,204 (1,237)	1,118 (1,026)	+ 85 (+ 210)
人件費	326 (335)	337 (309)	△ 10 (+ 26)
経費	877 (901)	781 (717)	+ 96 (+ 184)
営業損益 (EBIT)	9 (9)	8 (8)	+ 0 (+ 1)

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 9

- ◆ 9ページは、国際物流事業セグメント（日本郵便（連結））について記載しています。
- ◆ 右上の棒グラフは、事業別の営業損益 (EBIT) の推移を示すものです。
- ◆ フォワーディング事業の営業損益 (EBIT) が5百万豪ドル改善したものの、全体では前年同期並みとなりました。
- 左下の滝グラフは、営業損益 (EBIT) の前年同期からの増減分析です。
- 左から3番目のフォワーディング事業収入は、取扱量の増加等により101百万豪ドルの増収となりました。
- 営業費用は、右から3番目の人件費は減少したものの、右から2番目のフォワーディング事業等の経費が増加し、全体で85百万豪ドルの増加となりました。
- ◆ 右の表は国際物流事業の営業損益 (EBIT) の前年同期比較です。
- ◆ 豪ドルベースでは次の通りです。
 - ・ 営業収益 : 1,214百万豪ドル (86百万豪ドル増加)
 - ・ 営業費用 : 1,204百万豪ドル (85百万豪ドル増加)
 - ・ 営業損益 (EBIT) : 9百万豪ドル (0百万豪ドル増加)
- ◆ 為替の影響を含む円ベースでは次の通りです。
 - ・ 営業収益 : 1,247億円 (212億円増加)
 - ・ 営業費用 : 1,237億円 (210億円増加)
 - ・ 営業損益 (EBIT) : 9億円 (1億円増加)

- ・当期からセグメントとして開示 (注1)
- ・85億円の営業利益を計上

営業利益の増減分析(前年同期比)



営業収益の推移



当第1四半期の経営成績

	2025/3期 第1四半期	2024/3期 第1四半期	増減
営業収益	296	108	+ 188
貸貸	126	102	+ 24
分譲	162	—	+ 162
営業費用	211	123	+ 87
営業利益(※)	85	△ 15	+ 100

注1: 当期(2025/3期)から事業セグメント区分を変更し、新たに不動産事業セグメント(日本郵便の不動産事業、日本郵政不動産、JPビルマネジメント及びJPプロパティーズで構成)の業績を開示。

注2: 前期(2024/3期)の値は、当期からの区分に対応するよう組替えを行い、比較情報を作成。

※ 経常利益は81億円(前年同期比+97億円)

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 10

- ◆ 10ページは、不動産事業セグメントについて記載しています。
なお、6ページのコメントに記載のとおり、2025年3月期から同セグメントの開示を行っていますが、2024年3月期の値は、当期からの区分に対応するよう組替えを行い、比較情報を作成したものです。
- ◆ 右上は営業収益の推移を示した棒グラフです。
- ◆ 左の滝グラフは、営業利益の前年同期からの増減分析です。
 - 貸貸収益は、前期竣工物件の稼働率向上により24億円の増収となりました。
 - 分譲収益は162億円、営業収益は188億円の増収となりました。
 - 営業費用は、分譲事業における販売原価(経費)の増加等により、87億円の増加となりました。
- ◆ これらの結果、営業利益は、100億円増加し、85億円となりました。

四半期純損益の増減分析(前年同期比)

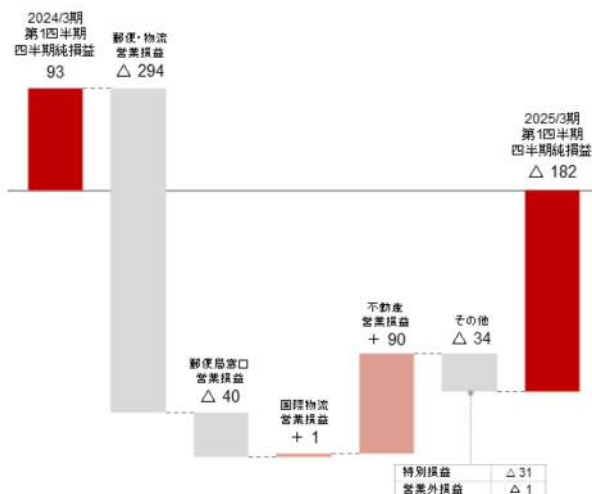
(億円)

〔営業損益の推移〕

23/3期 1Q	24/3期 1Q	25/3期 1Q
267	96	△ 147

〔四半期純損益の推移〕

23/3期 1Q	24/3期 1Q	25/3期 1Q
297	93	△ 182



当第1四半期の経営成績

(億円)

	2025/3期 第1四半期	2024/3期 第1四半期	増減
営業収益	8,305	8,014	+ 291
営業費用	8,453	7,918	+ 535
人件費	5,322	5,200	+ 122
経費	3,130	2,717	+ 413
営業損益	△ 147	96	△ 243
経常損益	△ 160	84	△ 244
特別損益	2	34	△ 31
税引前四半期純損益	△ 157	118	△ 276
四半期純損益	△ 182	93	△ 276

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 11

- ◆ 11ページは、日本郵便（連結）について記載しています。
- 左の滝グラフは、四半期純損益の前年同期からの増減分析です。
- 左から2番目および3番目の郵便・物流事業、郵便局窓口事業で減益となっており、その結果、四半期純損益も減益となっています（赤字転落）。
- ◆ 右の表は、日本郵便全体の四半期純損益の前年同期比較です。
- ◆ 主な項目の増減は次の通りです。
 - ・ 営業収益 : 8,305億円(291億円増加)
 - ・ 営業損益 : △147億円(243億円減少)
 - ・ 四半期純損益 : △182億円(276億円減少)

- ・ 四半期純利益は962億円、前年同期比94億円の増益

当第1四半期の経営成績(連結)

	2025/3期 第1四半期	2024/3期 第1四半期	増減
連結粗利益	3,190	1,893	+ 1,296
資金利益	2,586	1,691	+ 894
役務取引等利益	393	386	+ 6
その他業務利益	209	△ 184	+ 394
うち外国為替売買損益	212	△ 128	+ 340
うち国債等債券損益	△ 3	△ 56	+ 53
経費（臨時処理分を除く）	2,380	2,373	+ 7
一般貸倒引当金繰入額	0	0	△ 0
連結業務純益	809	△ 479	+ 1,288
臨時損益	567	1,664	△ 1,096
経常利益	1,377	1,184	+ 192
四半期純利益	962	868	+ 94

資金利益の内訳(単体)

	2025/3期 第1四半期	2024/3期 第1四半期	増減
資金利益	2,586	1,688	+ 898
資金運用収益	4,575	3,379	+ 1,196
資金調達費用	1,989	1,691	+ 298

貯金残高(単体)



Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 12

- ◆ 12ページは銀行業セグメントについて記載しています。
- ◆ 左の表がゆうちょ銀行(連結)の四半期純利益の前年同期比較です。
- ◆ 連結粗利益は、資金利益が894億円増加、外国為替売買損益、国債等債券損益などのその他業務利益が394億円増加したこと等により、前年同期比1,296億円増加の3,190億円となりました。
- ◆ 臨時損益は、プライベートエクイティファンド等からの収益が増加したものの、株式のリスク調整オペレーションに伴う売却益の減少により、前年同期比1,096億円減少の567億円となりました。
- ◆ これらの結果、経常利益は、前年同期比192億円増加の1,377億円、四半期純利益は、同94億円増加の962億円となりました。
- ◆ 連結粗利益の主な内訳として、ゆうちょ銀行(単体)の資金利益の内訳を右の表に記載しています。ゆうちょ銀行(単体)の資金利益は、外債投資信託からの収益増加等により、前年同期比898億円増加の2,586億円となりました。

・ 四半期純利益は209億円、前年同期比でほぼ横ばい

当第1四半期の経営成績(連結)

	2025/3期 第1四半期	2024/3期 第1四半期	増減
経常収益	14,654	15,937	△ 1,283
経常費用	13,973	15,505	△ 1,532
経常利益	681	432	+ 248
特別損益	△ 213	27	△ 240
価格変動準備金戻入額 注	△ 213	27	△ 241
契約者配当準備金繰入額	171	157	+ 14
四半期純利益	209	210	△ 0
新契約年換算保険料 (個人保険)	638	230	+ 407
保有契約年換算保険料 (個人保険)	29,715	29,873	△ 157

注: 符号がプラスの場合は戻入を、マイナス(△)の場合は繰入を示す。

(参考) 経常利益の内訳(単体)

	2025/3期 第1四半期	2024/3期 第1四半期	増減
基礎利益	434	576	△ 141
キャピタル損益	299	20	+ 278
臨時損益	△ 58	△ 155	+ 97
経常利益	675	441	+ 234

契約の状況(個人保険)

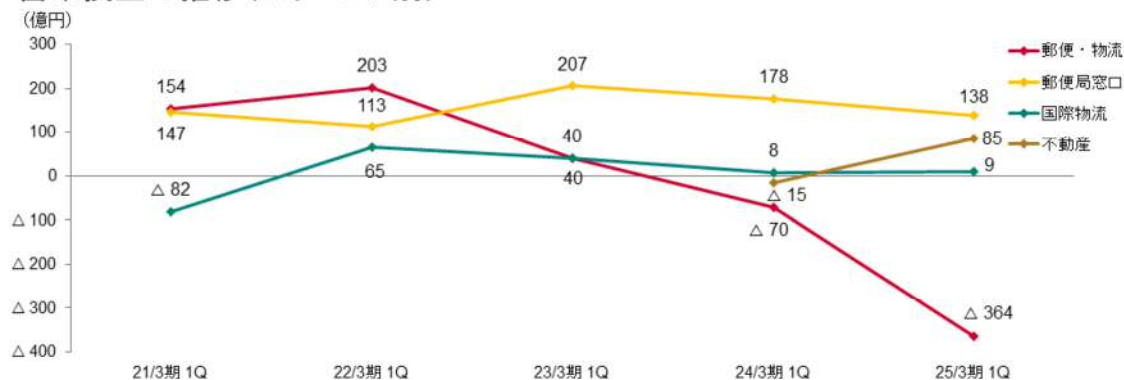


- ◆ 13ページは生命保険業セグメントについて記載しています。
- ◆ 左の表がかんぽ生命(連結)の前年同期比較、右下の表が契約の状況(個人保険)です。
- ◆ 主な項目の増減は次の通りです。
 - ・ 経常収益 : 1兆4,654億円(1,283億円減少)
 - ・ 経常利益 : 681億円(248億円増加)
 - ・ 四半期純利益 : 209億円(0億円減少)
- ◆ 経常利益は、基礎利益は減少しましたが、臨時損益の改善およびキャピタル損益の大幅な改善により、248億円の増益となりました。
- ◆ 四半期純利益は、キャピタル損益(投資信託の解約益を除く)および順ざやに含まれる為替に係るヘッジコストを、価格変動準備金で中立化するため、前年同期比でほぼ横ばいとなりました。
- ◆ 新契約年換算保険料は、増加となりました。
- ◆ 保有契約件数は、減少となりました。

➤ 通期業績予想の進捗率(セグメント別)

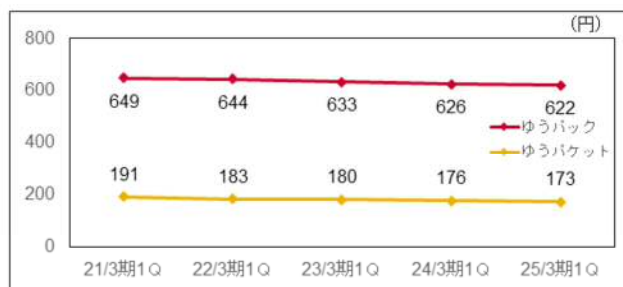
	郵便・物流事業 セグメント	郵便局窓口事業 セグメント	国際物流事業 セグメント	不動産事業 セグメント
営業損益予想	10	△ 180	120	40
(1Q進捗率)	(－)	(－)	(8.3%)	(213.1%)

➤ 営業損益の推移(セグメント別)



- ◆ 14～15ページはセグメント業績関連の参考情報を記載しています。
- ◆ 上の表が通期業績予想の1Q進捗率(セグメント別)です。国際物流事業セグメントが8.3%、不動産事業セグメントが213.1%となりました。(郵便・物流事業セグメントは営業損失、郵便局窓口事業セグメントは業績予想が営業損失のため記載なし)
- ◆ 下の表が営業損益の推移(セグメント別)です。郵便・物流事業セグメント、郵便局窓口事業セグメントで減益、国際物流事業セグメント、不動産事業セグメントが増益となっています。

➤ 【郵便・物流セグメント】ゆうパック等の単価の推移



➤ 【不動産事業セグメント】賃貸収益の推移



<最近のトピック>

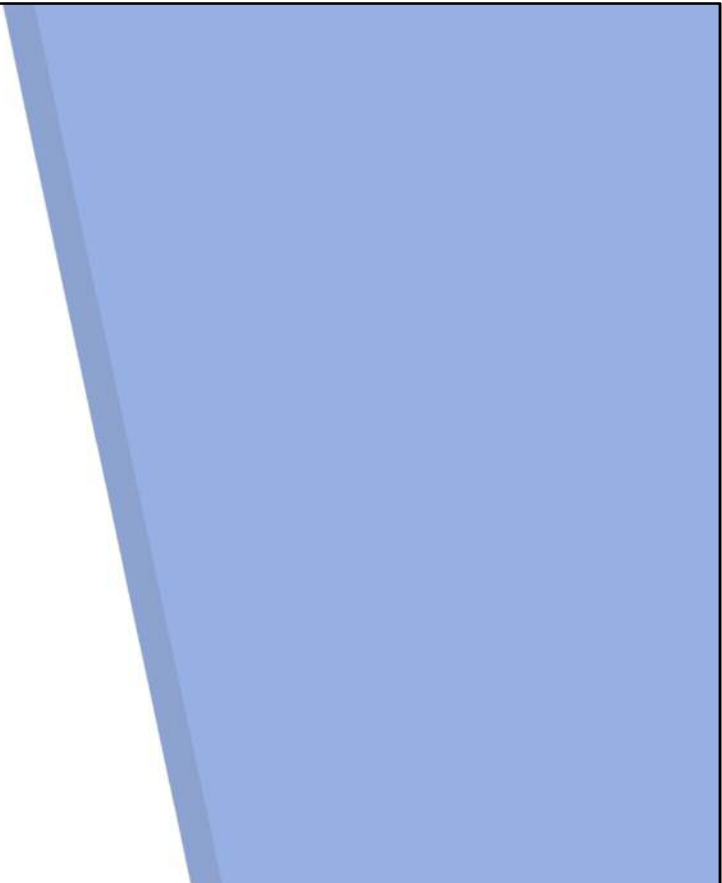
「KITTE大阪」グランドオープン
(2024年7月31日)



※「JPタワー大阪」2024年3月竣工

◆ 上の表が【郵便・物流セグメント】ゆうパック等の単価の推移です。「ゆうパック」は622円、「ゆうパケット」は173円となりました。

◆ 下の表が【不動産事業セグメント】不動産事業トピックです。賃貸収益は每期積み上がってきています。

A large blue geometric shape, resembling a parallelogram or a tilted rectangle, occupies the right half of the page. It has a lighter blue shadow or gradient effect on its left side, creating a sense of depth.

3.

資料編

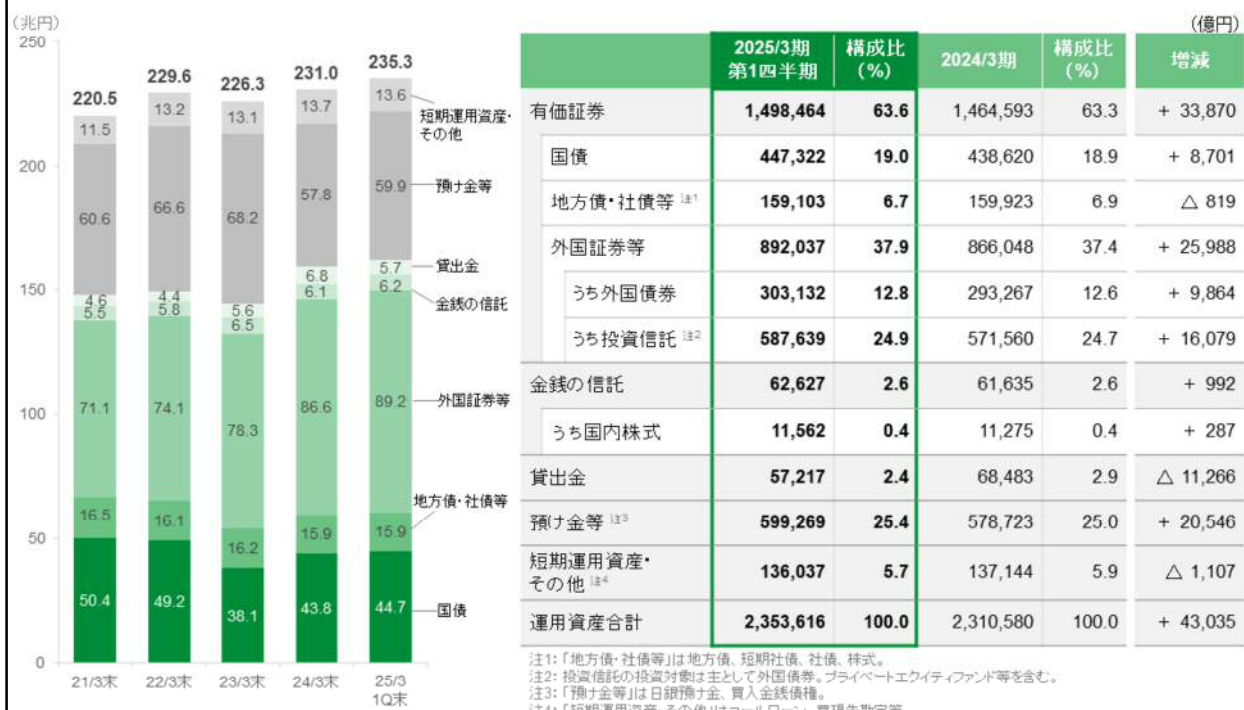
要約連結貸借対照表

(億円)

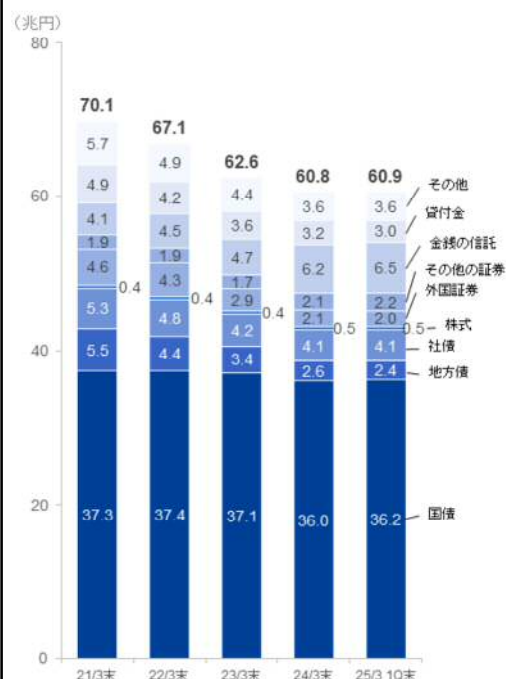
	2024/3期	2025/3期 第1四半期	増減		2024/3期	2025/3期 第1四半期	増減
現金預け金	595,074	624,087	+ 29,012	貯金	1,908,730	1,926,349	+ 17,619
コールローン	20,500	17,550	△ 2,950	売現先勘定	279,476	316,421	+ 36,945
買現先勘定	107,898	103,323	△ 4,574	保険契約準備金	519,883	518,663	△ 1,220
金銭の信託	124,350	128,174	+ 3,824	債券貸借取引受入担保金	23,737	26,790	+ 3,052
有価証券	1,947,440	1,986,026	+ 38,586	借入金	21,534	21,672	+ 138
貸出金	101,297	87,457	△ 13,839	退職給付に係る負債	20,542	20,792	+ 250
有形固定資産	32,335	32,311	△ 23	負債の部合計	2,829,506	2,893,207	+ 63,701
無形固定資産	2,985	3,007	+ 22				
繰延税金資産	7,049	8,425	+ 1,376	純資産の部合計	157,385	153,972	△ 3,412
資産の部合計	2,986,891	3,047,180	+ 60,289	負債及び純資産の部合計	2,986,891	3,047,180	+ 60,289

- ◆ 16ページは日本郵政グループ要約連結貸借対照表を記載しています。
- ◆ 資産の部合計が6.0兆円増加の304.7兆円、負債の部合計が6.3兆円増加の289.3兆円、純資産の部合計が0.3兆円減少の15.3兆円となりました。

ゆうちょ銀行（単体）資産運用の状況



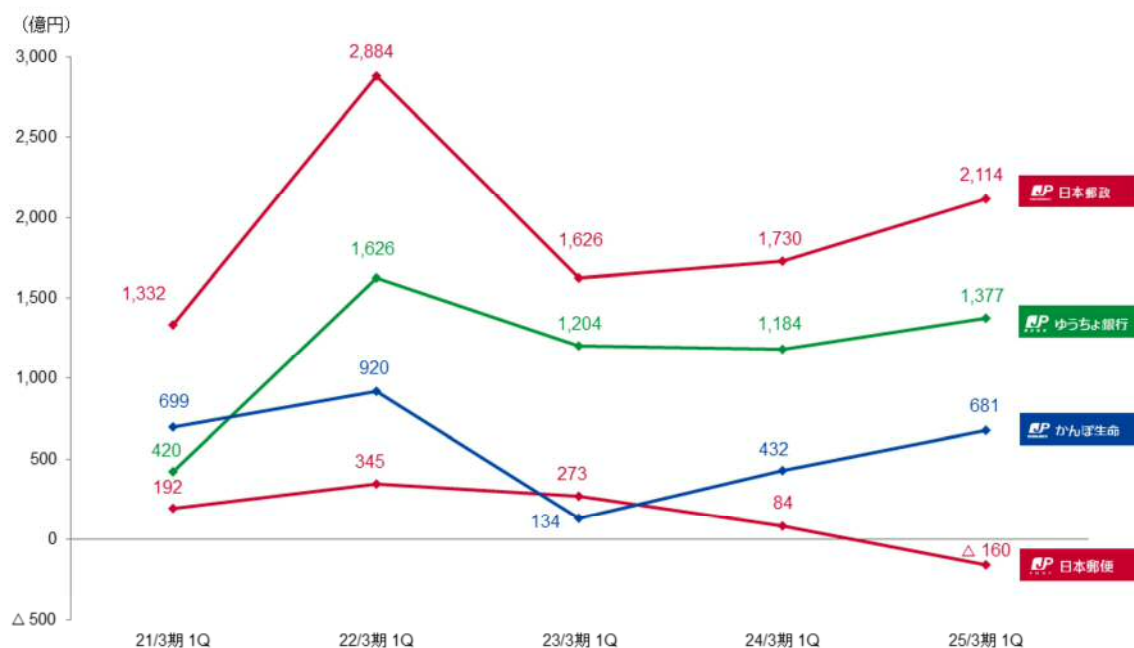
- ◆ 17ページは、ゆうちょ銀行（単体）の資産運用の状況です。
- ◆ 運用資産は総額で、4.3 兆円増加の235.3兆円となりました。
- ◆ 外国証券等は2.5兆円増加の89.2兆円となり、運用資産合計における構成比は37.9%と、残高・構成比ともに過去最高となりました。
- ◆ 国債は0.8兆円増加の44.7兆円となり、構成比は19.0%となりました。



	2025/3期 第1四半期	構成比 (%)	2024/3期	構成比 (%)	増減 (億円)
有価証券	476,822	78.2	476,938	78.4	△ 115
国債	362,203	59.4	360,375	59.2	+ 1,827
地方債	24,806	4.1	26,345	4.3	△ 1,539
社債	41,262	6.8	41,198	6.8	+ 63
株式	5,680	0.9	5,577	0.9	+ 103
外国証券	20,589	3.4	21,688	3.6	△ 1,099
その他の証券	22,280	3.7	21,752	3.6	+ 527
金銭の信託	65,547	10.8	62,714	10.3	+ 2,832
うち国内株式	31,623	5.2	31,071	5.1	+ 552
貸付金	30,240	5.0	32,813	5.4	△ 2,572
その他	36,823	6.0	36,093	5.9	+ 730
総資産	609,433	100.0	608,558	100.0	+ 874

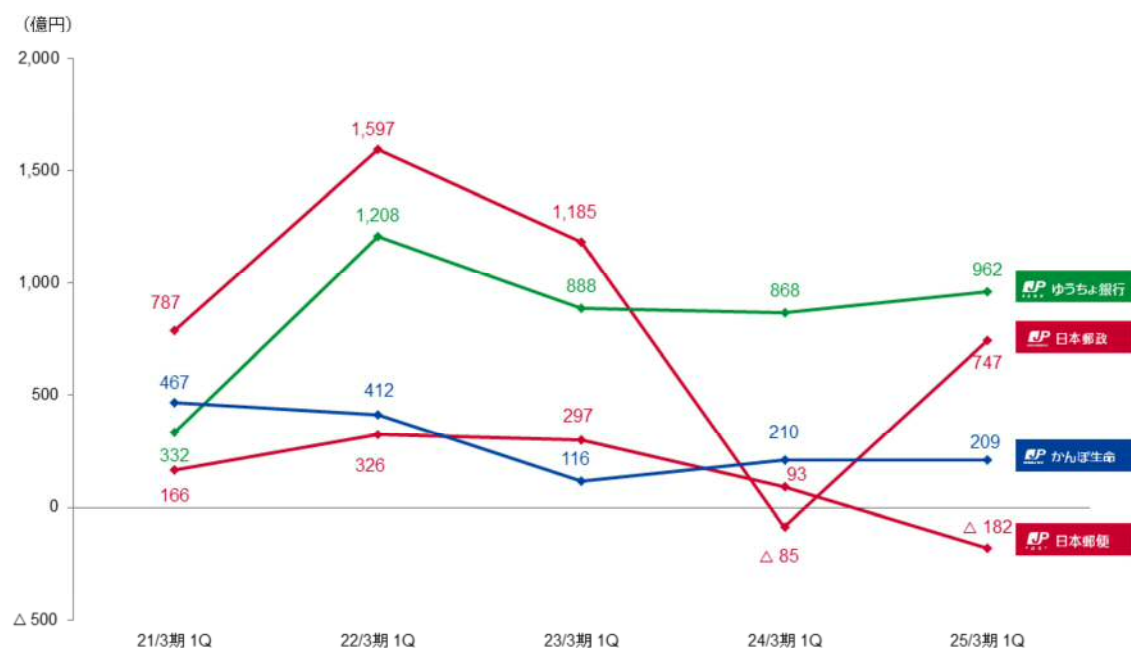
- ◆ 18ページは、かんぽ生命の資産運用の状況です。
- ◆ 運用資産は総額で、0.08兆円増加の60.9兆円となりました。
- ◆ 総資産のうち、約8割を占める有価証券は、0.01兆円減少の47.6兆円となりました。
- ◆ 有価証券の大部分は国債であり、0.1兆円増加の36.2兆円となっています。
- ◆ 上記の他、地方債が0.1兆円、外国証券も0.1兆円減少しています。

経常利益の推移



- ◆ 19ページは、主要3社及びグループ連結の経常利益の過去5期分の推移をグラフ化しています。
- ◆ 経常利益は、グループ連結、ゆうちょ銀行、かんぽ生命が増益、日本郵便が減益となっています。

四半期純損益の推移



- ◆ 20ページは、主要3社及びグループ連結の四半期純損益の過去5期分の推移をグラフ化しています。
- ◆ 四半期純損益は、グループ連結、ゆうちょ銀行が増益、日本郵便、かんぽ生命が減益となっています。

本資料に記載されている通期業績予想等将来に関する記述は、当社が現在把握している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束するものではありません。実際の業績等は、国内外の金融政策の変更や景気変動、競争条件の変化、大規模災害等の発生、法規制の変更等様々な要因により大きく異なる可能性があります。